

令和 7 年度

半田病院経営委員会

会 議 録

つるぎ町立半田病院

開催場所	つるぎ町立半田病院 3階 大会議室
開催日時	令和6年8月1日（金）午後1時30分～午後5時
出席者	○委員長：中園 雅彦（つるぎ町立半田病院 病院長） ○委員：（代理を含む） 谷田 一久（㈱ホスピタルマネジメント研究所 代表取締役） 藤永 裕之（徳島県立三好病院 病院長） 多田 尚起（三好市立三野病院 事務長） 竹田 慶子（つるぎ町 住民代表） 吉田 光子（つるぎ町 議会副議長） 古城 忠美（つるぎ町 副町長） 山蔭 貞治（つるぎ町 総務課長） 土肥 直子（つるぎ町立半田病院 副院長） 並川 修（つるぎ町立半田病院 副院長） 寒川 忍（つるぎ町立半田病院 看護部長） 丸笹 寿也（つるぎ町立半田病院 事務長） 佐藤 祐樹（つるぎ町立半田病院 職員労働組合代表） ○病院事業管理者：須藤 泰史 ○オブザーバー： 【診療部】中矢診療部長・廣瀬医員 【看護部】黄田次長・田邊師長・住友師長・西川師長・上野主任 美馬主任・浦森主任・川手主任・柳澤課長補佐・田村課長補佐 【診療支援部】西谷検査科長・林放射線科長・池森薬剤科長 割石臨床工学科長・片岡栄養管理科主任・国見リハビリ科長 齋藤リハビリ主任 【管理部】山本システム課長・折目主幹・加藤主幹・櫻間課長補佐 四宮課長補佐・小林係長・南係長・山下主事
審議事項	I 令和6年度 病院事業報告について II 半田病院「経営強化プラン」の点検 その他
議事要旨	次のとおり

令和 7 年度 半田病院経営委員会 会議録

【 1 3 時 3 0 分開会】

1. 開 会 13:30～

2. 病院事業管理者挨拶

3. 講 演 14:00～

講 師 美馬市国民健康保険木屋平診療所
所長 藤原 真治 先生

『思いがある人が集う地域医療の拠点として』

～【 休 憩 】～

4. 委員の紹介 15:15～

5. 審議事項

I 令和 7 年度 病院事業報告について

II 半田病院「経営強化プラン」の点検

その他

6. 閉 会 17:00

◎質疑等

○中園委員長（半田病院長）

今の医療を取り巻く状況、非常に厳しいです。これは半田病院だけの問題じゃなくて、全国的な傾向かもしれません。ただ、今の半田病院の現状とその原因、私たち自身でちゃんと考えて、どう対応していくかも考えてまいりました。経営強化プランも各部門で色々考えてくれました。ただ、内部の視点だけでは見えにくいところもありますので、今日は皆さんからご意見いただいて、それをさらに反映させていきたいと思えます。

それでは、どなたかご意見ございますか。では谷田先生、よろしくお願いします。

委員意見・質疑応答

○谷田委員（ホスピタルマネジメント研究所）

今回、資料を拝見して、いろいろ工夫されたのだと思います、随分従来と変わってきたなと感じました。ただ、工夫するにしても、もう少し合理的かつ論理的に進めていただけたらなという印象があります。まず大事なのが、「医業外収益は本業以外の要因」って書いていますが、公立病院の“本業”って何なのか。そこを定義しないといけないです。もし「保険診療が本業」ならば、それは民間病院と一緒にです。それが本業だと言ってしまうと、住民に誤解を与えますし、藤原先生の講演内容とも矛盾しちゃいます。あと、住民の皆さんへ向けた発信は、すごくいい取り組みだと思いますけど、「何のために病院が存在して、どんな役割を担っているのか」が曖昧なまま「理解してください」ってお願いをしても、やっぱりわかりづらいです。それから赤字について。「頑張っているから許してね」って見えかねない記述がありますが、そうじゃないですよ？管理可能な赤字要因と、管理不能なものっていうのをしっかり分けて表現しないと、読んだ人には分かりづらいです。例えば物価高騰、これは管理不能です。でも、材料費や給食費、医薬品、委託料なんかにどう影響しているか、あるいは徳島市内よりも不利な点があるなら、しっかり数字で出さないとダメです。あと、人事院勧告についても、「民間より高いかも」みたいな書き方をしていますが、むしろ公立病院が率先して医療業界の方向性を引っ張っていくことが大事ですから。繰り返しになりますが、病院の存在意義、どういう役割を担っているのかというストーリー、それを論理的に、地域の皆さんが納得できる形で描いてほしいと思います。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。非常に分かりやすく、また多くの示唆をいただきました。では、藤永委員、お願いいたします。

○藤永委員（三好病院長）

谷田先生のご意見、本当にその通りだと思いますし、当院としても非常に勉強になりました。当院の方がもっと赤字が多いです。ただ、当院は2億ぐらい医業収益を増やしました。でも、人事院勧告の関係で2億8000万ぐらい給与費が増加いたしました。結局、赤字は5億から7億に増えました。県でも今、材料費を抑えられないかと考えています。ただ、当院が一番弱いのは輸送です。例えば四国中央とか三豊から仕入れた方が安いかと思っても、県病院なのでそういう動きは取れない。そこが悩ましいところです。あと、今回すごくいいなと思ったのが、総合診療科の先生を育成されていること。これは人材育成として本当に大事です。当院も同じように「学びを通して地域医療の要となろう」をキャッチコピーで取り組んでいます。それで、半田病院さんがこれからどんな方向性で進んでいかれるのか、特に強みにしていこうとしている部分について教えてもらえればと思います。

○中園委員長（半田病院長）

当院の強みとしましては、三好病院さんにはない産婦人科、それから泌尿器科ですね。

○藤永委員（三好病院長）

例えば、当院から受け入れをお願いすることは可能なのでしょうか。

○中園委員長（半田病院長）

可能でございます。当院としては急性期医療を三好病院さんで担ってもらって、その後の準急性期とか在宅につなぐ中間の医療、そこを当院が担えたらと考えています。

○藤永委員（三好病院長）

そうなれば、当院にとっても、また次の患者を受け入れ出来ますので、今私たちは、できるだけ夜間や緊急性のある患者を中心に地域を守っていければなと思っていますので、その辺りで連携取れていければと思います。ありがとうございます。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。今後とも連携を深め地域医療を守っていけるよう当院も尽力してまいります。その他どなたかいらっしゃいませんか。こちらから指名させてもらってもよろしいでしょうか。多田事務長お願いいたします。

○多田委員（三野病院 事務長）

はい、知識が浅いところもあるのですが、当院でも6年度の決算が出まして、3年続けて黒字だったのですが、6年度は赤字決算となりました。資料を拝見して、抱えている課題とか赤字の背景は当院と非常によく似ているなと感じました。当院の規模は半田病院さんの半分以下ですけど、

地域医療を支えるっていう使命は同じです。今回の資料に書かれている経営改善のポイント、詳しくとても勉強になりました。今日、ここに来られて良かったなと思っております。今後、当院の経営改善にも役立てていきたいと思ひます。ありがとうございます。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。では、竹田委員、お願いします。

○竹田委員（住民代表）

はい、半田病院ができたのは、私が生まれるちょっと前で、こちらに嫁いできた時に、病院が近くにあるっていうだけで本当に安心しました。歩いて5分ぐらいの距離で、何かあってもすぐ診てもらえるって思うと心強かったです。病院がなくなるとは思っていないですけど、これからずっと医療を提供し続けていただけたらと思っています。自分が亡くなる時も、半田病院でお世話になればいいと思っています。先生方や看護師さんたち、すごく信頼しております。ただ、患者さんへの接し方、もう少しだけ工夫してもらえたら、もっといい病院になるのではないかと思います。以上です、よろしくお願いします。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございます。ご期待に応えられるよう、しっかり頑張っていきます。藤原先生、一言お願いします。

○藤原先生（木屋平診療所 所長）

はい、初めて経営委員会に参加させていただいて、いろいろなお話を伺って、とても勉強になりました。木屋平診療所でも、これからこういったことをちゃんと考えなければいい思ひました。単純な話かもしれませんが、この赤字の額は住民の一人当たりで見たらどれくらいなのかなあと。仮に1万円でお釣りが来るくらいだったら、「それで医療が受けられるんだったら全然いいじゃないか」って思えるのかなと。そういった観点で考えても、病院って地域にとっては大事な存在なのだと改めて思ひました。よろしくお願いします。

○中園委員長（半田病院長）

とてもありがたいご意見です。住民の皆様のご理解というのは重要な部分でございます。では続いて、吉田副議長、お願いいたします。

○吉田委員（つるぎ町議会 副議長）

私は自営業やっております、正直なところ半田病院には「困った時だけ」お世話になっております。よく住民の方から「半田病院、今どうなっているの？」って聞かれることが多いです。病院が今どういうことに取り組んでいるのか、どんなことを考えているのかをもっと住民に伝えていくことも大事なんじゃないかなって思ひます。ちょうど今日、総務課長さんも来ていらっしゃるので、町の広報で新しい先生が来た時に紹介するとか、そういった広報活動、もう少しやっていたらいいな

と。各科がどういうことやっていて、それがどう住民に役立つか、そういうのが伝われば、病院に行ってみようかなって思う人も増えると思います。よろしくお願いします。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございます。広報については SNS も含めて、今後いろいろ検討していきたいと思っています。それでは、古城副町長、お願いいたします。

○古城委員（つるぎ町 副町長）

はい、経営が厳しいという話の中で、一般会計からの繰り入れの話も出しましたが、議会の承認も必要なので、無制限に出すわけにはいきません。最近「地方公営企業とは何か」というのをもう一度読み返しました。第 3 条には「経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するように運営する」と書かれています。つまり、赤字だろうと不採算医療だろうと、公立病院が担うべき役割があるということです。ただ一方で、国のガイドラインを見ていると、その公共性の部分が抜け落ちて、数字だけが先走っているようにも感じます。これはちょっと違うと思っています。それと私事ですが、つい先日、私の孫が半田病院で無事に生まれました。お世話になった先生方、本当にありがとうございました。その時改めて「身近な地域医療だなあ」と実感しました。町としても引き続き協力していきますので、これからもよろしくお願いいたします。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございます。力強いお言葉、心強いです。では、山蔭課長、お願いします。

○山蔭委員（つるぎ町 総務課長）

先ほど副議長の広報の件につきましては、今後病院と協議して進めてまいりたいと思います。それと、今副町長も申しましたように、純損失に対しまして町としてどのような補填ができるのかと、具体的な協議を進めさせていただこうということになろうと思います。最終的には議会の承認が必要になってまいります。町といたしましても、半田病院につきましては設立当初からの歴史も十分ございます。地域の医療を支える中核病院として、また政策的役割も担っていただいております。そういうことを十分認識しておりますので、精一杯な協力はさせていただきたいという風に考えてございますが、先ほど谷田先生のお話にもありましたように、やはり町としても繰り出し金には限界がございますので、早期な改善をお願いできればと町として考えてございますので、よろしくお願いいたします。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。できる限り、早急に対応を進めてまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。続きまして佐藤委員、よろ

しくお願いします。

○佐藤委員（半田病院 組合代表）

職員労働組合代表としてこの席に座らせていただいております。ちょっと経営のお話からは離れてしまいましたが、組合として直近で2点、活動と労働の環境変更を提案させていただきました。1点目が、病院敷地内の清掃奉仕活動を行うことです。半田病院の敷地内の清掃をして自分たちの働く環境を整えることについて、組合から少数ではございますが動員させていただきました。また、2点目が名札についてです。名札の簡易化を要望しました。近年、カスタマーハラスメントが問題視されております。組合員の方から要望がありまして、依頼をさせていただきました。フルネームの表示を苗字のみの表記に変更させていただきました。このように変わることも、何かしらにチャレンジすることも必要なのではないかなと思います。簡単ではございますが、労働組合の代表としての一言とさせていただきます。

○中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。また何か建設的なご意見がありましたらご要望ください。以上で予定していた審議は全て終了となります。その他、何かご意見ございますか。なければ最後に須藤管理者が統括して一言お願いします。

○須藤管理者（半田病院 事業管理者）

皆さま、長時間ありがとうございました。谷田先生からコメントいただきました。毎回いろんなことを教えていただいて、本当におっしゃる通りだなと思います。そういった内容をいかに住民の方、行政の方、あるいは職員に伝えながら、病院として前に向いていくかを考えてやっていかねばならないなと思います。これからも叱咤激励よろしくお願いいたします。

藤永先生からは、元々県西部は、地域医療構想会議のベッド数が出た段階で、これだったら別に三好病院さんと三野病院さんと半田病院みんなで積み上げてクリアできるベッド数であると、三好病院さんが高度急性期を増床すればというような、私はそう思っていたので、元々住み分けができていますと思います。三好病院さんができていない周産期医療、それと小児医療も半田病院がだいぶシフトしてやっています。最近いろんな会議で言っていますが、半田病院がなくなってしまうと県西部で子どもを産み育てることができなくなってしまう。また、病院で働く人も来なくなる。最後の砦となっていますので、なんとか残してもらいたい。だから、何もつるぎ町さんだけに負担をかけるのではなくて、県にも国にもお願いしていきたい。この間、厚生労働省の役人にもお伝えしてきました。なんとか国から支援していただきたい。これは全国のへき地の周産期・小児医療もそうですけど、そういったところにお金を考えてもらって、日本人を各地で生み育てるっていう環境を国家として考えてもらいたい。常々思っています。私の娘も今度帰ってきて出産いたしますので、5人目の孫が土肥先生のお世話になって生まれる予

定ですので、無くなると困ってしまいます。ぜひ残していただきたいと思っています。それと住み分けとなると、周産期・小児医療とそれから透析ですね、今の三好病院さんの泌尿器科医が常勤ではなくなってしまって、毎日県中からの派遣でパート勤務になりました。ですので、透析も月水金の午前だけという状況です。当院は月水金／火木土やって 60 名ぐらいの透析患者さん、腹膜透析 3 名抱えておりますので、そういったところはカバーできていると思うのですが、私もどんどん高齢化してしまうので、今の大学医局からは泌尿器科の常勤医の派遣は難しいと回答いただいております。そんな中、腎臓内科医が来てくれたので、今後透析に関しては泌尿器科医というよりは、腎臓内科の先生にシフトしていきながら維持透析は続けていきたいと思っております。今、腎臓内科の先生も一緒にシャントの手術や腹膜透析のカテとかを一緒に入って外科スキルも覚えてもらっていますので、そういったことも今後補完しながら、継続してやっていければと考えております。今後も県西部 3 病院で話し合いながら、どうやってこの県西部で、人が住んでくれて生活できるエリアを守っていくかという話し合いは続けて協力していければと思っています。

三野病院の多田事務長さん、ありがとうございます。三野病院さんも同じ公立で、経営が厳しいところだと思いますが、今後も協力してやっていただけたらと思います。

それから竹田さん、当院は昭和 24 年国保の診療職員施設としてスタートして今日まで続いております。ありがたいお言葉をいただき、今後も半田病院が 100 年、150 年と何とか続けていかなければと思っています。

それから藤原先生、貴重なお話ありがとうございます。先生が言われた住民 1 人当たりいくらまで負担したらこの赤字は構わないのかっていうのは、県南の海南病院、海南町の町長はですね、1 人住民 1 万出しても病院を守る。かなりのお金をつぎ込んで、でも、本当に病院って無くなったら困るのだと町長さんの覚悟のもとやっている。その時に言われた言葉で僕も思っていますが、住民 1 人あたりいくら出したら、この町が 1 人あたりこれだけ出してでも、病院を残せるのなら出そうよ。そのご理解を住民の皆さんに得られて、でも理解を得られるようなことを病院としてはやっていかないとダメだろうと思っています。へき地のことを先生はよくご存知なので、私も一度自治医大の住民と病院を守る会で講演と幹事をやってくれと頼まれて、自治医大まで行って地域の講演に参加しましたが、住民たちは病院がなくなったら困るなと気が付いて、守ろうっていう風に動いているところがあります。でも、大体病院が潰れそうになってから気がつくことが多いのが現実です。

吉田議員さんの広報の件ですが、実は病院の宣伝っていうのは、ホームページに書くこととか新聞に少し書くことぐらいで、開業医の先生たちの民業圧迫を招きかねない部分もあります。特に公的病院があまりにも宣伝効果があるようなやつは難しいです。これまでもつるぎの広報に新しい先生が赴任した時は掲載させてもらっています。そういう紹介的なのはできますが、当院が宣伝活動をしすぎると民業圧迫になってしまうところもあって、そこはちょっとまたご相談して。当院独自で

広報を出して病院に掲示しています。新しい先生方の紹介とか外来一覧表とかお出ししているので、ぜひたくさん持って帰っていただいて、半田病院は何ができるのとおっしゃられている方に渡していただけたらありがたいかなと思います。

それから、つるぎ町の方からお２人、重要な方に来ていただいて、町長に陳情に行くと必ずお２人とお会いいたしますが、これからも半田病院を見捨てずに支えていただきたいと思っております。ありがとうございました。はい、以上です。

中園委員長（半田病院長）

ありがとうございました。これで令和７年度 半田病院経営委員会を閉会します。皆様、長時間にわたりありがとうございました。